

WebOTX Portal 導入事例

株式会社 日建設計 様

クラウドとオンプレミスの業務を統合するフロント統合基盤により、生産効率の向上とコスト削減、BCPへの対応を実現



株式会社 日建設計
コーポレート部門
情報サービスチーム
室長
斉藤 安生 氏



株式会社 日建設計
コーポレート部門
情報サービスチーム
主査
杉田 修 氏



株式会社 日建設計
コーポレート部門
情報サービスチーム
戸谷 留美香 氏

nikken.jp

日建設計

社 名：株式会社 日建設計
所 在 地：本社：〒102-8117 東京都千代田区
飯田橋2丁目18番3号
設 立：1950年7月(1900年6月創業)
資 本 金：4億6,000万円(2013年4月1日現在)
役 職 員 数：2,406名
(日建グループ含む/2013年4月1日現在)
事 業 内 容：建築の企画・設計監理、都市・地域計画お
よびこれらに関連する調査・企画コンサル
タント業務
U R L：http://www.nikken.jp



導入前の課題

管理業務の負荷が高まり、
ユーザも画面デザインと使い勝手に不満

株式会社日建設計様(以下、日建設計様)は、国内外で建築の設計・監理、都市計画などを手がける日本最大手の総合設計事務所です。近年の作品では、東京スカイツリーが記憶に新しいところでしょう。日建設計様ではこのたび、グループウェアを基盤とする社内の業務ポータルを全面的に見直し、フロント統合基盤「WebOTX Portal」を導入して業務システムのインタフェースを再統合しました。

日建設計様では、早くからグループウェアを基盤とする社内ポータルの構築に取り組んできました。しかし、従来のポータルでは画面レイアウトや表現の自由度、設定のしやすさや管理操作のレスポンスなどの点に課題を抱えていました。特に組織変更や人事異動にともなうユーザIDの変更

が複雑で、管理業務の負荷が高まっていました。「管理画面のレスポンスが悪く、アクセス権を設定したりポートレットを新規作成したりするときなどは作業負荷が高くないへんでした。そのため、社内ポータルを管理する外部の専属スタッフが必要でした。また、社内からは画面デザインやレイアウト、使い勝手に関する要望が多く寄せられました。既存のポータルでは対応し切れませんでした」と、情報サービスチーム室長の斉藤安生氏は導入前を振り返ります。

また既存ポータルでは、ユーザが重要情報や業務に必要な情報を見つけにくいという課題もありました。さらに、リニューアルの背景には、全社的な業務環境の変化も、大きなテーマとして浮上っていました。

こうした課題を解決するため、日建設計様ではフロント統合基盤への全面移行に踏み切りま

導入の経緯

クラウドとオンプレミスを統合できる、
使いやすいWebOTX Portalに決定

日建設計様は、2012年の後半から社内ポータルのリニューアル計画を進め、数社の製品を検討しました。その中で「レイアウトや表示の柔軟性、使いやすい操作性、既存システムからの移行性、アクセス権限管理の容易さ、そしてコスト面で最も優れているWebOTX Portalを選択しました」と、選定にあたった同チーム主査の杉田修氏は語ります。

「技術面では、SSO(※)や他システムとの連携を

十分に考慮しました。管理面では、ポータル側のID管理と社内のID管理が円滑に連携できるかという点と、旧ポータルで使っていた資産をスムーズに新ポータルへ移行できるかという点を重視しました。その結果技術的にも優れ、コストパフォーマンスも高いNEC製品に決定しました」(杉田氏)

比較検討した数社の製品は、完全なポータル専用システムではなくワークフローなど不要なシステムが付属しており、とても高価だったといいます。日建設計様は、東日本大震災を機にBCP対策としてメールシステム、スケジュール管理システム

はクラウドサービスを利用しています。これには、事業展開のグローバル化と、携帯端末の普及によるワークスタイルの変化という背景もあり、いつ、どこにいても社内システムへアクセスできるシームレスな業務環境の構築というシステム戦略を推進中でした。つまり、クラウド環境とオンプレミスの業務システムやデータベースなど様々なシステム環境がスムーズに統合できる、使いやすいポータル環境の構築が不可欠なテーマとなっていたのです。その要件をすべて満たしたのがWebOTX Portalでした。

(※) Single Sign-Onの略

4カ月の短期構築で、完成度の高いポータルシステムを実現

全社のトップとなる新たなポータル構築は、2013年3月にスタート、7月にはカットオーバーを迎えています。わずか4カ月という短期構築が可能だったのは、既存システムを熟知したSEと製品担当者が連携し、直接やり取りをすることができたからだといいます。システム構築の全過程がスムーズに進み、問題はほとんど発生し

● 日建設計様の新ポータル画面



ませんでした。「システム切替時に、問題が起きそうな点を事前に指摘していただいたり、煩雑な要望を出した際などには迅速に対応していただいたりと、NECへの信頼性はたいへん高かったと思います。今回のリニューアルでも、サポート面では安心

でした」と、同チームの戸谷留美香氏は語ります。新ポータルシステムの完成度は高く、本稼働前に各部門の担当者を集めて行われたプレゼンテーションでも、社内から追加要望はほとんど出ませんでした。

導入後の成果

社内の評価も高く、管理業務の効率化を格段に推進

新ポータルに対する社内の評判は上々でした。多用な情報を、柔軟にカテゴライズしてわかりやすく整理できたため、情報の見つけやすさや重要情報の注目度が格段にアップしました。画面にビジュアルなアイコンを導入し、ユーザの視認性を高めるとともに直感的な操作が可能になりました。社員からは、見栄えもよく使いやすいという声が寄せられています。

「レイアウトが自在なので、不要な情報はカットし、掲載したい情報だけアップできるなど、ポータル画面にムダがいっさいなくなりました」と杉田氏。また、旧ポータルに比べ管理画面の操作性やレスポンスが非常に良く、ユーザアカウントの変更もシンプルにすばやく実行できるため、業務の生産性が大きく向上しました。従来は社内ポー

タルの管理業務を行う専属の外部スタッフが1名必要でしたが、新ポータルでは社内スタッフのみで処理できるようになりました。様々な管理業務に要するリードタイムも短縮され、導入前とは格段の差が生じています。

「毎年、大きな人事異動の際はID設定変更などの業務を3日間かけて行っていました。新ポータルの導入後、それがどれだけ短縮できるか期待しています。また、運用管理の効率化で生じた余裕を、本来のシステム開発へと向けられるのも大きな効果のひとつです」と斎藤氏。

また、機器類の削減について、「従来のポータルシステムは最大7台のサーバで運用していましたが、新ポータルは3台のサーバで済み、システム機器の削減も実現できました」と戸谷氏。

さらにWebOTX Portalは、インシャルコストとランニングコストともに低価格で済み、コスト削減効果も目に見えて大きかったといいます。

トップポータルを皮切りに、各部門やグループ会社のポータルを刷新予定

今回のリニューアルは、全社のトップに位置するポータルシステムの刷新でしたが、日建設計様には、各部門あるいはグループ会社ごとに数多くのポータルが存在しています。それらを順次、新たなポータルへと移行する予定です。全社トップのポータル刷新はその初期フェーズであり、社内やグループ会社へその使いやすさを広く認知・アピールすることで、これからの移行計画をスムーズに運ぶというねらいもありました。

近々、WebOTX Portalの次期バージョンがリリース予定ですが、より多くの企業で使われ機能的にも磨かれていることから、日建設計様では今後とも積極的に導入していきたいとの意向です。

お問い合わせは、下記へ

NEC プラットフォームビジネス本部

〒108-8424 東京都港区芝五丁目33番8号(第一田町ビル)

TEL: 03 (3798) 7177

【受付時間】9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日・NEC所定の休日を除く)

URL: <http://jpn.nec.com/webotx/portal/>

●本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
●このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。
●本製品の輸出(非居住者への業務提供等を含む)に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。